

学びと気づき

開邦高校 一年

大城 美月

残酷で無慈悲な戦争。かつて沖縄はその犠牲となりました。

幾千、幾万の命が奪われ深い傷跡が人々の心にも沖縄の大地にも残されました。

六月二十三日、まだ終戦などしていなかった。今現在でも、まだ終わっていないのだと思います。沖縄の土地も空も奪われたまま、返還されるどころか、また新たに占領されようとしています。

屈辱の日、オスプレイ、基地移設。あの頃から、ずっと犠牲のままではないでしょうか。ニュースを見る度に、私の中の何かギシギシと軋みます。テレビのインタビュで、戦後、米軍の訓練の流れ弾にあたり親戚を亡くした。と、拳を強く握りしめ語る人がいました。アップになったその拳からは憤り、悔しさ、悲しみ、辛さが強く伝わってきました。何故、土地を奪われなくてはならないのか。何故、死ななければならなかったのか。

「痛い。」と感じるくらいの思いがそこにはあり、私は今まで何のために平和と戦争について学んできたのだろうと涙がでてきました。

戦闘機の飛ぶ空を爆音でガタガタと揺れる窓を日常とし、基地が拡大していくのをただ傍観して生きてきたのか。

抗うべき問題に、私は気がついていませんでした。今、こうした問題に必要なのは私達のような若い世代の協力と理解ではないでしょうか。本島北部、古宇利島に続く大きな橋の近くの砂浜。そこには、戦時中、赤ん坊がたくさん埋められました。うるさく泣くから、母親達は、身を引き裂かれる思いで我が子に砂をかけました。

韓国など、当時の日本帝国に虐げられていた国からは、男性は軍夫として、女性は慰安婦として、無理矢理連れてこられました。軍夫は、日本軍による迫害と差別で数百名の命が奪われました。このことを、若い世代のどのくらいの人知っているでしょうか。平和学習をしているときは、痛感する悲惨さ、しかし、毎日の生活に戻ってしまえばすぐに薄れ忘れていってしまいます。

私も、そうでした。平和な時代に生まれてそれが当たり前だと思っていたからです。おそらく、そんな人の方が多いと思います。このことも、問題の一つです。

この問題解決には、平和学習の必要性や本当の意味について知ってもらわなければなりません。学習の意味はたくさんありますが、私は戦時中・戦後の人々の魂の生き方を知り、その生き方をしていくことだと思います。

あの激動の時代を生きた人々の魂はとても強くたくましいものでした。現在も、戦争こそないもののあの時代と同じく大きく揺れ動いています。だから、あの時代の人々の魂を生き現代の試練ともいえるべき問題を解決していかなければならないのです。

現代を生きていく私達には伝承と物事を改善していく義務があります。今のままでは若者の意識は低迷していくばかりで、沖縄の悲しい過去は空しい平和の日常に埋もれてしまっています。私達が語り継がないで一体誰が語り継ぐのか、私達でないといけないのです。そのことを一人一人が、自覚して行動していけば、結果的に様々な問題の解決へと繋がります。明日が来るのを、当たり前だと思わず、「生」に対しての感謝を持ち、その大切さと重みを感じていかなければ、現在の日本の国難も乗り越えることはできません。

私は、沖縄が抱える問題やその他多くの問題解決へと繋がるように、平和への理解、協力を呼びかけていきたいと思いました。

悲惨な戦争をもう二度と繰り返さないために、今すべきことは意識改革を学びを深めることです。

沖縄を救えるのは、私たち若者なのです。